

下水道専門部会の審議状況

昭和 61 年度の改定以降、現行使用料を維持してきた下水道使用料収入は、近年の人口減少や節水意識の向上等による使用水量の減少により、平均年 1 % 程度の減少が続くと見込んでいる。

「こうべアクアプラン 2020」の収支見通しでは、平成 31 年度以降に赤字が発生する見通しとなっている状況から、平成 28 年 12 月に上下水道事業審議会に「今後の下水道事業の経営と使用料制度のあり方」について諮問を行った。

同審議会において下水道専門部会を設置し、これまでに 2 回専門部会を開催しており、①本市の下水道使用料体系、②下水道使用料の対象となる有収水量及び使用料収入の現状分析と将来予測、③下水道使用料の他都市比較、④改築更新等の投資計画について検討し、委員からご意見をいただいた。

第 3 回の専門部会は平成 29 年秋頃に開催予定であり、引き続き審議会及び専門部会でご議論いただき、平成 30 年秋頃に答申をいただきたいと考えている。

【下水道専門部会における審議の経過】

	日 程	議 題
第 1 回	平成 29 年 2 月 15 日	(1) 専門部会の進め方 (2) 下水道使用料の現状
第 2 回	平成 29 年 5 月 22 日	(1) 第 1 回専門部会の発言を受けての追加資料 (2) 改築更新等の投資計画

【下水道専門部会での主なご意見】

第 1 回	<ul style="list-style-type: none">・他都市の基本水量をなくす動きの背景はどうか。・他都市の状況やトレンドを参考に議論を進めるべき。・水質使用料は処理コストに見合った費用負担なのか。・直近の過去 10 年のトレンドを反映し、平成 40 年度までの収入予測を立てることには賛同。・使用料体系の変化で家庭の使用水量はあまり変化しないと考えるが、大口企業のコスト削減努力により振れ幅が大きくなるのでは。・基本使用料を少し高めに設定し、緩やかな逡増にシフトしたほうが、事業者の行動の変化の影響が少ないのでは。・使用料改定は上水道と時期を合わせて行えないか。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none">・資産維持費を使用料対象経費に算入させるべきなのか。国の意向を引き続き注視すべき。・神戸市はどれぐらいのスパンでの改定を考えているのか。・昨今の突発的な集中豪雨等を鑑みれば、今後も処理水量が水平に推移する（減少しない）のではないか。